

5月24日 (日) ヨシュア 19章	「イスラエルの人々は自分たちの土地の中からヌンの子ヨシュアに嗣業の土地を贈った」(49節)。シロの臨在の幕屋の入り口で、主の前においてくじを引いて、それぞれが受け継いだ嗣業の土地の分配が終わると、イスラエルの人々は指導者ヨシュアに自分たちの中からエフライムの山地に嗣業の土地を彼に与えた。これは主の命令に従って行われたという。
25日 (月) ヨシュア 20章	「過って人を殺した者がだれでも逃げ込み、共同体の前に立つ前に血の復讐をする者の手にかかって死ぬことがないようにしたのである」(9節)。これはモーセを通して神から告げられた「逃れの町」の規定。意図的にでも、恨みからでもなく人を殺してしまった人に対して、神は彼に正当な裁きを受けさせ、生きる道を備えられた。命を尊ぶ神を知らされる。
26日 (火) ヨシュア 21章	「イスラエルの人々の所有地の中で、レビ人の町は総計四十八で、それに属する放牧地があった」(41節)。神はモーセを通してレビ人の各氏族のための土地を、くじで分け与えられた。くじ引きは神の指示とされていたのだろう。主は周囲の敵から彼らを守られ、安らかに住めるようにしてくださった。主が彼らに約束した恵みは全て実現した。
27日 (水) ヨシュア 22章	「ルベンとガドの人々はこの祭壇を、『わたしたちの間では主が神であることの証人』と名付けた」(34節)。ヨルダン川西岸の9部族は、東岸のギレアド地方のルベンとガド、マナセの半部族の人々が独自の祭壇を築いたことを非難したが、ギレアド地方の人々は、この祭壇はヨルダン川西岸と東岸の人々とが同じ主を神として礼拝する和解の印であると語った。

28日 (木) ヨシュア 23章	「あなたたちも心を込めて、あなたたちの神、主を愛しなさい」(11節)。これはヨシュアの告別の言葉。イスラエルの民がそれぞれ嗣業の土地を与えられたのは主の恵みによると告げた。だからこれからも主を固く信頼せよ、とも語っている。ヨシュアは同時に主の言葉に背く恐ろしさも告げた。その後、彼らは恐ろしい滅びの道へ進んでしまうことになる。
29日 (金) ヨシュア 24章	「『それではあなたたちのもとにある外国の神々を取り除き、イスラエルの神、主に心を傾けなさい』と勧めた」(23節)。シケムでヨシュアがイスラエルの民と交わした契約。ヨシュアが「わたしとわたしの家は主に仕えます。あなたたちは自分たちの仕える神を選びなさい」と告げると、民は「わたしたちの神、主にわたしたちは仕え、その声に聞き従います」と答えた。
30日 (土) 士師記 1章	「ヨシュアの死後、イスラエルの人々は主に問うて言った。『わたしたちのうち、誰が最初に上って行って、カナン人を攻撃すべきでしょうか』」(1節)。主から指名を受けたユダはシメオンの同行を求め先頭に立ってカナン人を滅ぼしたが、完全には追い出せなかった。他部族の者たちも同様に、その町の住民を追い出し尽くせなかった。後に彼らの罠となっていく。
31日 (日) 士師記 2章	「主は士師たちを立てて、彼らを略奪者の手から救い出された」(16節)。ヨシュアの死後、主を知らない世代が他の神々に仕え始めると、主は彼らを略奪者の手に任せた。しかし圧迫されうめく彼らを哀れに思われると、主は士師を立てて略奪者から救われる。不信仰な民に「振り回される主」。一見「格好悪く」見えるその背後に、主の深い愛があることを知らされる。